

令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果分析

羽曳野市立高鷺北小学校

【1】調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③ 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

【2】調査実施日・対象学年

令和7年4月17日（木）・第6学年

【3】調査の内容

国語・算数

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになることが望ましい知識・技能など

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容など

【4】結果分析にあたって

- ① 分析結果は、児童・生徒の今後の学習指導の改善に活かしていく。
- ② 学校・家庭が課題を共有し改善につなげていく。
- ③ 課題を把握し改善する。
- ④ 育成プログラムを改訂・実施するなどPDCAサイクルによる検証改善に役立てていく。

【5】結果の分析と今後の課題

以下の％数値は、高鷺北小の正答率です。成果は比較的ポイントが高かった項目、課題は比較的ポイントが低かった項目を挙げています。

国語（％は高鷺北小学校の正答率）	
成果	<ul style="list-style-type: none">・図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（85.7％ 府比↑6 全国比↑6.5）・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる。（90.5％ 府比↑10.2 全国比↑9.3）
課題	<ul style="list-style-type: none">・情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容をとらえることができる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年度、昨年度と正答率が高かった【情報の扱い方】であるが、今年度は情報と情報の関連づけがうまくできなかったためか、結果はよくなかった。情報と情報の関連付けという視点も大切にして、さらに学習を深めていく。 ・普段の授業で他の児童が話しているのをしっかりと聞き、自分の聞こうとする意図に応じた内容のとらえかたができるように練習を積み重ねていく。 ・文章を書く機会を増やすとともに、その際に内容のまとまりごとの段落がえを意識させ、構成を整えた文章を書く力を養う。また文章を書くために必要な語彙の力をつけるために、学年に応じた難易度の本を選択し、意味が分からない語句について聞いたり調べたりしながら読書する習慣をつける。

算数（％は高鷺北小学校の正答率）	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフから項目間の関係を読み取ることができる。（府比↑4.6、全国比↑4.6） ・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる。（府比↑4.0、全国比↑3.7）
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ。 ・数直線上に示された数を分数で書く。 ・10％増量した詰め替え用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ。
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の性質をしっかりと理解させるために、学年が上がるごとに出てくる図形とともに既習の図形を振り返り、性質の違いを何度も復習する。また、その性質の図形を作図するために、コンパスや分度器の道具の特徴をどのように生かすのか、繰り返し作図して定着させる。 ・数直線は割合的な要素も大きい。その都度、ひとメモリの大きさが変わるが、整数でも分数でも小数でも同じ数直線内ではひとメモリの値は変わらないことも数直線を学習するたびに復習する必要がある。 ・割合は単位量当たりの考え方が大切である。1にするものが何なのかを常に意識することと、1を基の数にした時に小数や百分率で表すときなどいろいろなので、互いの関係を正しく理解しておくことが必須である。また、身近なお菓子や日用品などを見て視覚的に量感を養うことも大切である。

理科（％は高鷺北小学校の正答率）	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる。 （府比↑21.7、全国比↑19.6） ・水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる。 （府比↑15.6、全国比↑12.0）
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる。 ・レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる。
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた器具の使い方を理解させ、どうしてそうなるのかを理由とともに考えさせるとともに、どうしてその実験ではうまくいかないのかの理由も考えさせるようにする。 ・複数の自然の事物・現象に働きかけて出てきた事実について、自分や他者の気づきを比較し、差異点や共通点に基づいて、児童自身に問題を見いださせる。それを学級全体で解決すべき問題として設定していく。また、児童から出される疑問点をもとに、児童が調べたいことに着目し、引き続き今後も科学的に解決できる問題を設定する。

【6】学習状況調査（学習・生活に関する調査）結果の概要

設問項目の中で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合計した％数値になります。

1、学習に関する調査（％は高鷺北小学校の回答率）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか。 93.1％（府比11.3↑、全国比9.8↑） ・算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。 76.8％（府比7.2↑、全国比11.3↑）
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立たないと思っている児童が多い。
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業を中心に他の教科でも、【話す・聞く】【メモを取って書く】【意図を汲み取りながら読む】などの活動を通して、社会に出たときに役立つような内容を授業で取り入れていく。

2、生活に関する調査（％は高鷲北小学校の回答率）

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くのは楽しいと思いますか。 (府比↑3.3 全国比↑1.9) ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。 (府比↑3.3 全国比↑1.2) ・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。 (府比↑6.9 全国比↑5.8) ・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。 (府比↑7.9 全国比↑7.4)
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や目標は持っていますか。 否定的回答 28% ・あなたは自分がPC・タブレットなどのICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。 否定的回答 23.3% ・あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。 否定的回答 13.9%
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習や道徳などで、自分の将来の夢や目標について考える機会を設ける。 ・教科を問わず授業を通して、ICT 機器を使い慣れていく。また、調べ学習を通して多大な情報から、その時の自分に必要な情報を取捨選択する力を培う。